



株式会社 クシム

2022年10月期  
第4四半期 決算説明会資料

2022年12月14日

## 1. 2022年10月期 連結業績ハイライト

## 2. 事業の状況

1. ブロックチェーンサービス事業
2. システムエンジニアリング事業
3. インキュベーション事業

## 3. 中期目標の進捗 と 2023年度連結業績の見通し

# 連結業績ハイライト

売上高は前年同期比でほぼ同水準で着地  
 事業ポートフォリオの転換もあり、当社のEBITDAマージンは過去最高を達成  
 全ての収益指標にて黒字化、かつ、収益力も大幅な向上を達成

(百万円)	FY21.4Q 連結（実績）	FY22.4Q 連結（実績）	前年対比
売上高	1,621	1,616	99%
EBITDA	△39	441	-
営業利益	△134	199	-
経常利益	△114	193	-
当期純利益	△362	753	-

EBITDAマージン

約27%

売上高営業利益率

約12%

注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

期中に暗号資産市場の落ち込みがあり、難しい舵取りが強いられるも適切に管理  
 売上高・経常利益は、通期計画水準に届かずだったが、その他指標は計画どおりに着地

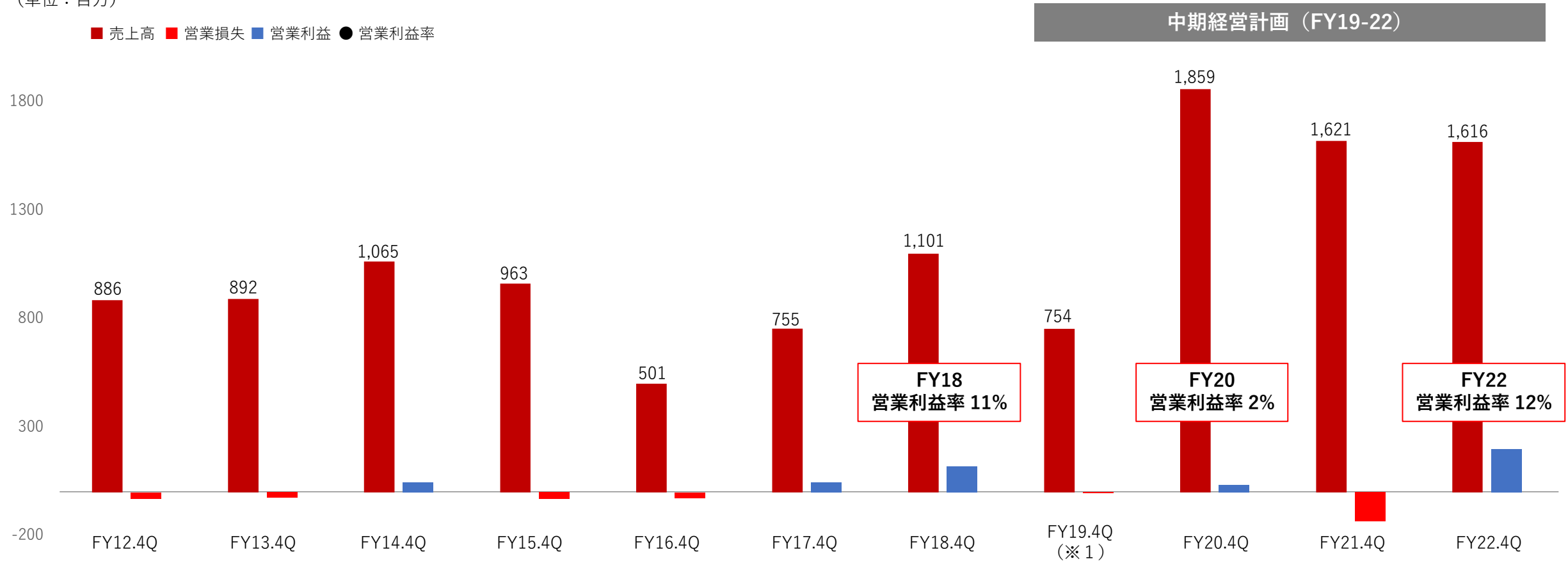
（百万円）	2022年4Q累計実績	2022年通期業績予想	達成率	通期計画の差異が生じた理由
売上高	1,616	1,998	81%	グループ各社は通期計画の達成に向け順調に進捗 ただし、期中に生じた暗号資産市場の落ち込みを 踏まえ、利益率重視の舵取りに変更
EBITDA	441	436	101%	コスプレトークン やスケブコインといった IEO案件の受注。
営業利益	199	191	104%	着実なプロジェクト進行もあり、本業の収益 水準は計画達成
経常利益	193	200	96%	暗号資産市場の落ち込みによる業績への影響は 限定的も、一部、売却損を計上
当期純利益	753	514	146%	特別利益の計上があり、減損損失を考慮しても 堅調に進捗。税金費用が当初見通しを下回った ため、通期では大きく上振れにて着地

注）百万単位以下については、切り捨て表記としています  
 出所）2022年10月期決算短信より抜粋

## 過去10年において、最も高い売上高営業利益率を達成 赤字体質から脱却。収益力の着実な向上を継続

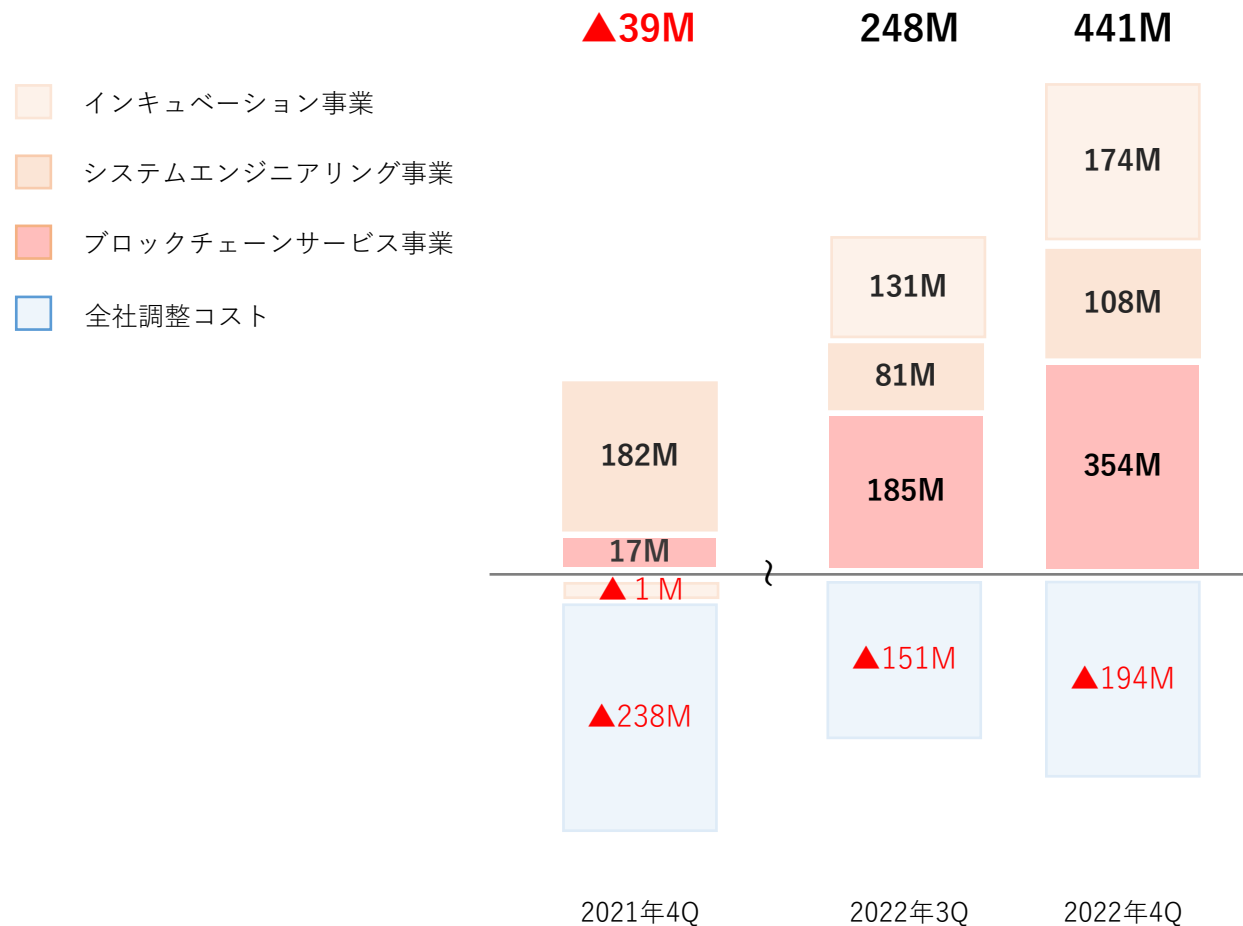
(単位：百万)

■ 売上高 ■ 営業損失 ■ 営業利益 ● 営業利益率



※1) FY19は10ヶ月の変則期間にて、3Q決算開示はなし  
出所) 2022年10月期決算短信

## 各事業のEBITDAは伸長を継続 企業価値の源泉であるCF総出力も着実に向上を維持



EBITDA (事業のみ)

前年同期比	+	<b>482M</b>
FY22.3Q比	+	<b>193M</b>

### 全社調整コストにおける主な前年対比増減要因

① 要因   資本政策に伴い生じた支払報酬の減少	▲7M
② 要因   上記に係る証券事務手数料の減少	▲18M
③ 要因   M&A案件獲得するための販促費の減少	▲20M

引き続き、財務基盤は安定水準にある  
十分な手元流動性を積極的な成長投資へ

連結BS (FY22.4Q)					
(百万円)	金額	構成比	(百万円)	金額	構成比
流動資産	2,810	43.6%	流動負債	284	4.4%
有形固定資産	5	0.1%	固定負債	312	4.8%
無形固定資産	2,131	33.1%	負債合計	596	9.3%
投資等	1,498	23.2%	純資産	5,848	90.8%
資産合計	6,444	100.0%	負債・純資産合計	6,444	100.0%

**流動比率**  
**987.2%**  
**負債比率**  
**10.2%**  
**自己資本比率**  
**90.3%**

参照) 2022年10月期決算短信  
注) 百万単位以下については、切り捨て表記としています



# 事業の概況

## 受託型開発のプロジェクトは堅調に推移 トークンエコノミクスと言われる暗号資産の利活用、そのデザインやアロケーションといった専門的なコンサルティングを安定受注

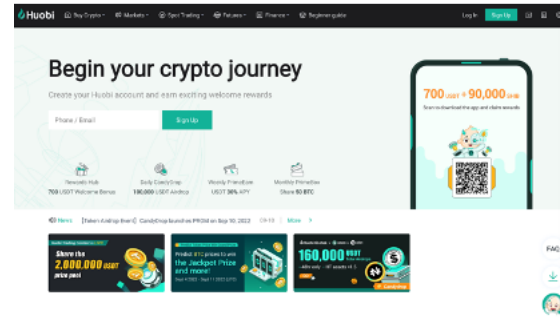
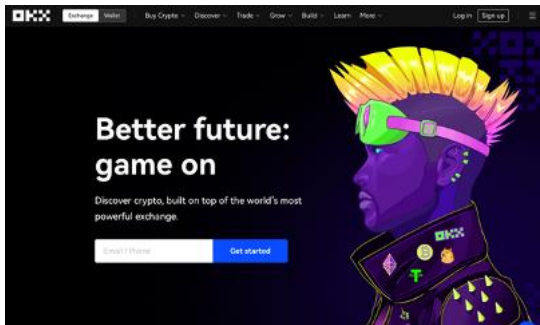


TG社：チューリング株式会社

スケブコインの海外上場を複数達成。かつ、上場後もマーケティングを支援  
4Qにて、本プロジェクトからの収益化を一部、実現

収益要因  
1

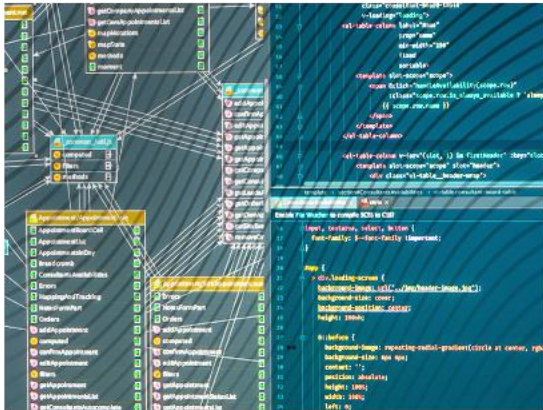
出来高世界第2位の暗号資産交換所であるOKXに上場  
ついで、Huobiグローバル他の海外交換所に引き続き、上場を加速  
国内上場が本丸と位置づけ、コインのバリューアップに向けた施策を継続



収益要因  
2

スケブコイン総発行枚数のうち、当社グループ保有分の一部を収益化

## 本セグメントのサービスラインは黒字基調を継続 引き続き、マージンの高い案件に経営資源を投下していく



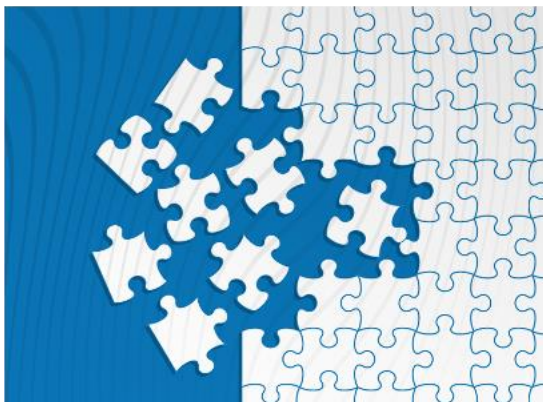
### ■ SES

SESの稼働率は高水準を維持  
各月単月黒字化を継続達成  
営業面でシナジーを追求  
エンジニア稼働率は大幅に改善  
ロー・コストオペレーションを  
継続強化



### ■ 受託開発／セキュリティ

大型のプロジェクトを複数受注  
受注マージンの高い案件に注力  
部門黒字化を継続達成  
エンジニアリソースを充足  
開発体制を強化中



### ■ 介護DX

ケアオンライン（ASPサービス）  
の保守業務を島根事業所に集約  
より一層の効率化を目的に、ケ  
アダイナミクスを吸収合併



### ■ ITエンジニアの高度化

先端技術を応用するプロジェク  
ト進行と合わせ、エンジニアの  
スキルアップを実現

## 暗号資産市場の相場が冷え込むも、ポートフォリオを適切に管理 M&Aは、魅力的な案件のソーシングを継続中



### ■ 暗号資産の投融資事業

複数の暗号資産に投資を実行  
着実に収益化を実現

- BTC・ETH等
- アルトコイン
- Defi銘柄
- その他

### ■ M&A や 資本業務提携

M&A仲介企業やデータベースを用いたM&A仲介サービスを活用し  
候補となる企業のソーシングを  
日々継続

引き続き、高度ITおよびブロック  
チェーン領域の企業に集中してM  
&Aの取り組みを進める



### ■ コンサルティング (ブロックチェーン領域)

ネクスコイン (NCXC)の価値向上  
支援が始動

- GameFi領域への展開支援
- スマホアプリ「Six porker」との  
コラボレーションを具現化
- その他提携も見据え、「NCXC  
GameFiプラットフォーム」の  
開発を推進

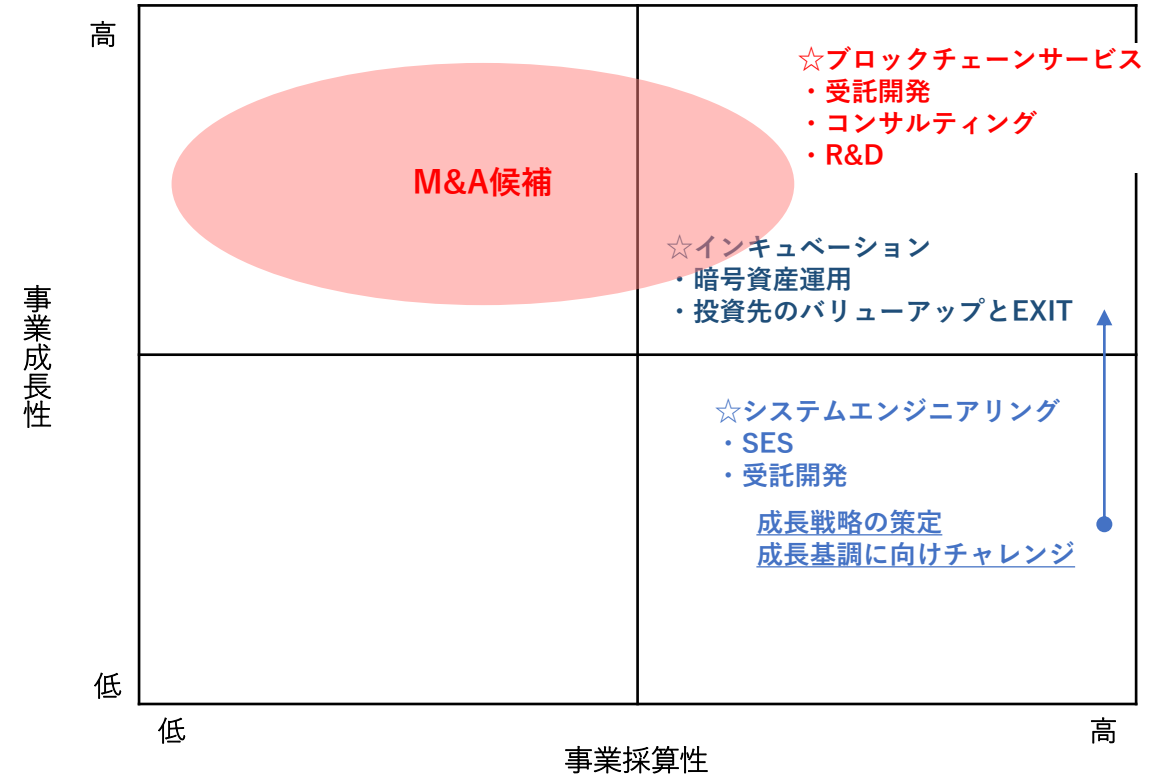
# 中期目標の前提と 2023年10月期連結業績見通し

事業ポートフォリオの組み替えを最優先に着手。  
不採算事業や投資回収が完了した企業を積極的に切り離し、ブロックチェーン分野に目を向け、積極的に経営資源を投下

これまで  
(FY19.5月～FY22.10月期)



これから  
(FY23.11月～未来へ)



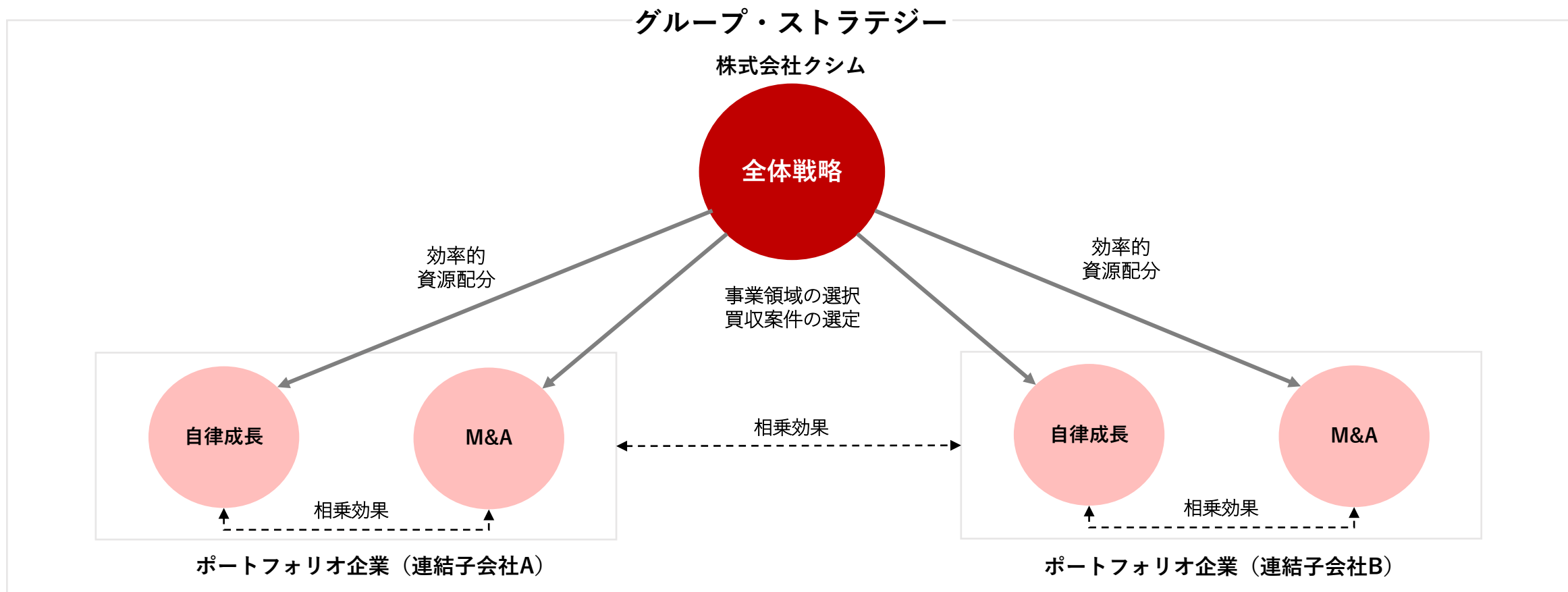


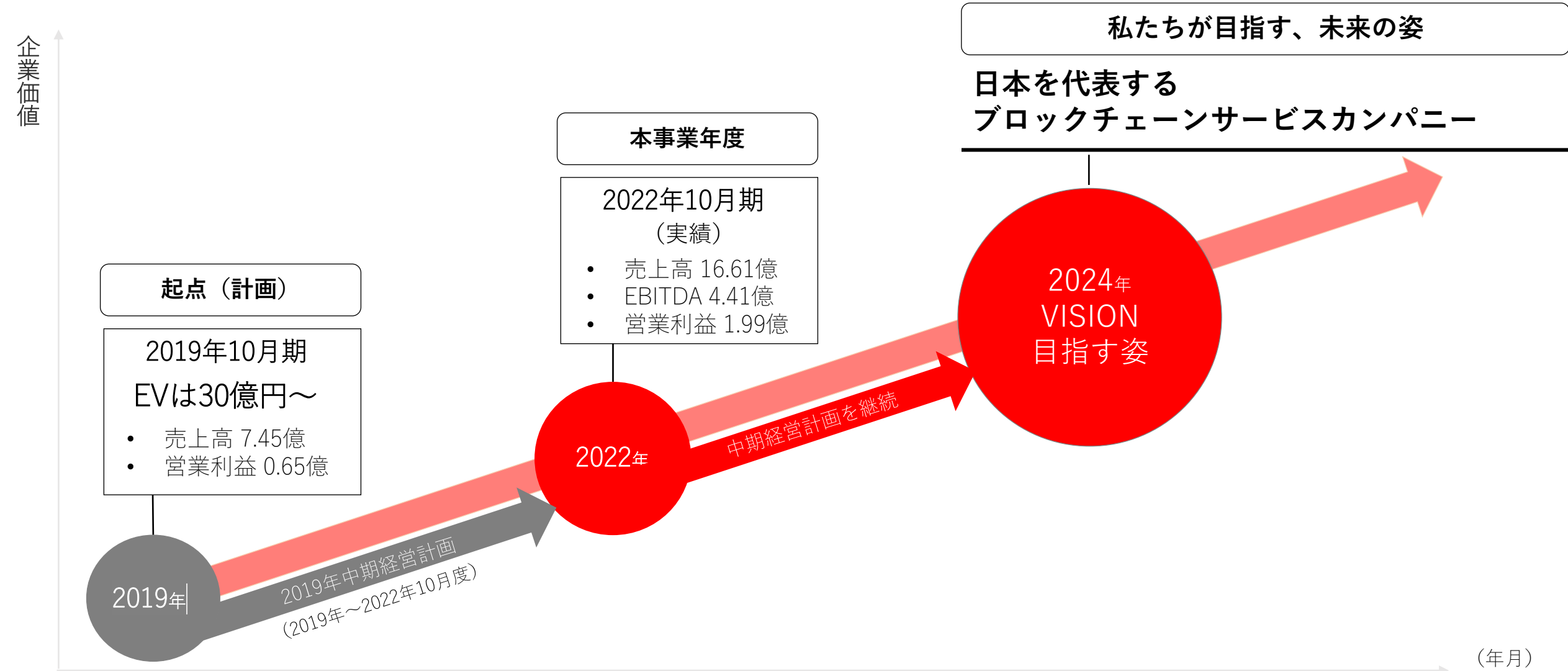
## 中期目標にて掲げた未来像に向け、積極的に事業ポートフォリオの転換を進めました。今後は、M&Aによる成長に主眼を置きます

企業（事業）名	取引形態	グループ化（外）時期	対応状況
エイムソフト社 (現クシムソフト)	株式取得	2019年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムエンジニアリング事業セグメントの中核企業として成長</li> </ul>
東京テック社 (現クシムソフト)	株式取得	2019年11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムエンジニアリング事業の強化を目的に株式を取得</li> <li>後に、クシムソフトと経営統合</li> </ul>
CCCT社 (現クシムインサイト)	株式の一部取得	2020年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社グループの中間持株法人と位置づけ</li> <li>インキュベーション事業セグメントの暗号資産運用における中核企業として成長</li> </ul>
ケアダイナミクス社	株式取得	2020年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムエンジニアリング事業の強化を目的に株式を取得</li> <li>後に、クシムソフトと経営統合</li> </ul>
イーフロンティア社	株式譲渡	2020年4月～2022年5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>祖業であるeラーニング事業とのシナジーを期待し、株式を取得</li> <li>後に、ピアズ（証券コード   7066）に全株譲渡</li> </ul>
ビデオ収録・ 映像配信事業	事業撤退	2021年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の収益性と成長性において高い成果を得ることが困難であると判断し、本事業の廃止を決定</li> </ul>
FLOC事業	資産取得	2021年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックチェーンエンジニア向けの教育コンテンツといった事業資産を取得</li> <li>後に、ブロックチェーン事業セグメントに位置づけ</li> </ul>
チューリングラム社 セブンページ社	株式取得	2022年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックチェーン事業セグメントの中核事業として成長</li> </ul>
eラーニング事業	株式譲渡	2022年7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ODKソリューションズ（証券コード   3839）に、祖業であるeラーニング事業を譲渡</li> </ul>



グループ全体の最適化を狙った「戦略立案」「グループ横断的なリソース分配」「グループ全体の利益を考えた事業領域の展開」を図る  
株式会社クシムは株主価値増大を主眼とするがゆえに、ポートフォリオ企業の競争優位を構築し、かつ、相互シナジーを創出していく





中期経営計画を更新しましたが、本目標を据え置きます。  
 売上高は、2024年10月期に28億円とし、成長率を重視して参ります。  
 EBITDA / 営業利益も、2024年10月期の目標値を据え置き、各年度の目標乖離分は、積極的に成長投資を実施することで達成を企図します

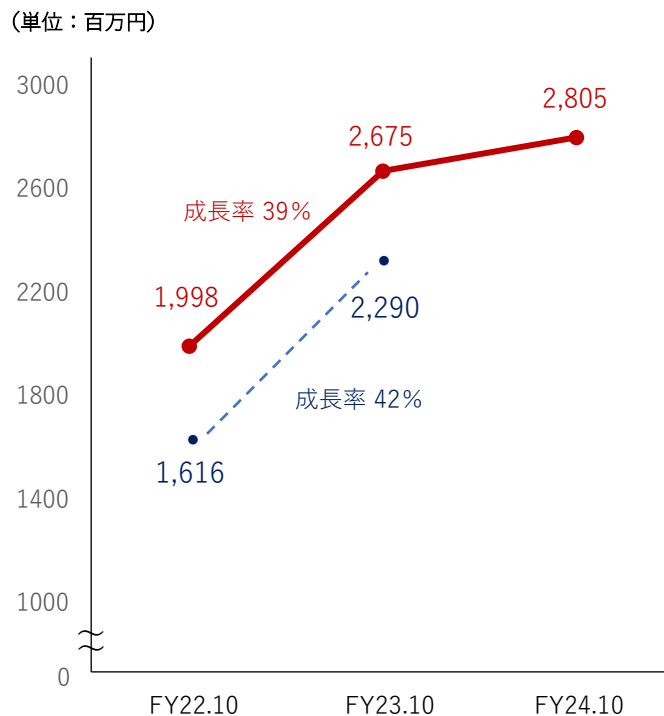
### FY23通期業績予想

**売上高** **22.9億円**  
 (成長率: 42%)

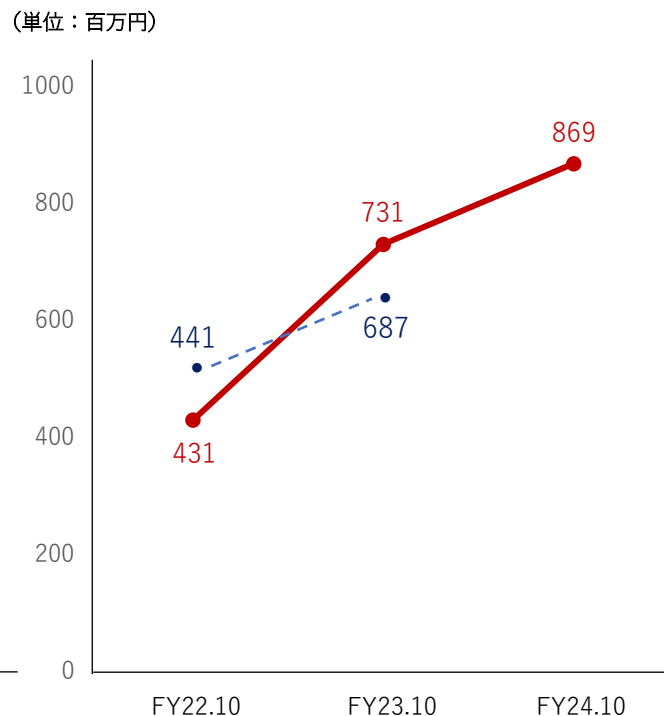
**EBITDA** **6.8億円**  
 (成長率: 56%)

**営業利益** **3.2億円**  
 (成長率: 68%)

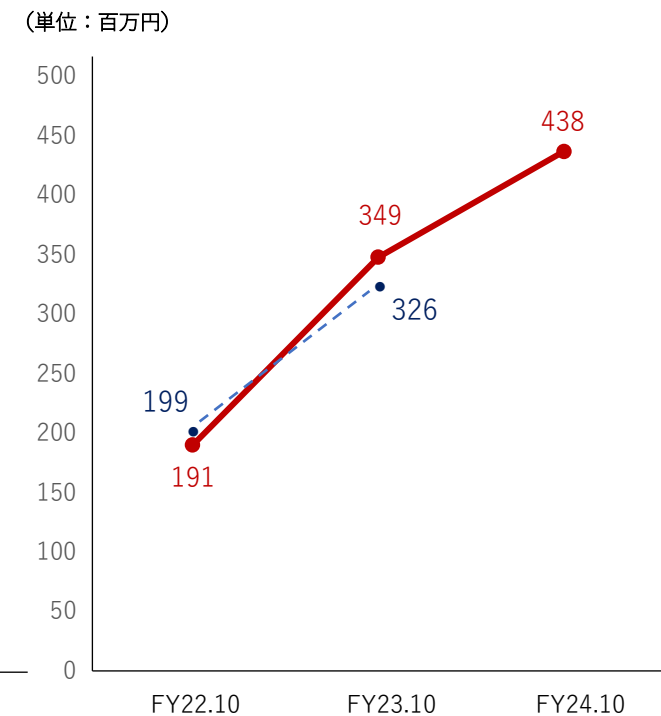
売上高の計画推移



EBITDAの計画推移



営業利益の計画推移



(出所) IR資料より抜粋

中期目標の早期実現に向け、当社のリスクを適切に評価し、リスクの特性及び状況に応じて対応策を図っております。以下は、顕在化した場合の影響度が大きい主なリスクになります。

主なリスク項目 <sup>1</sup>	影響するセグメント	リスクのシナリオ例	主な対応方針
サービスおよびシステム障害	全事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社グループ内のネットワークの不具合、人為的過失等の原因によりシステムダウンが起こる可能性等の様々な問題が発生した場合に顧客へのサービスの提供が不可能になる恐れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的運用のためのシステム強化</li> <li>セキュリティ強化</li> <li>短時間で復旧できるような体制の整備</li> </ul>
暗号資産の価格の変動 ならびに、 暗号資産相場の低迷	全事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>暗号資産市場の混乱等で当社保有の暗号資産の取引ができなくなる、又は暗号資産交換所のシステムの障害及び破たんが顕在化した場合には、対応費用の増加、当社グループへの信用の低下等が発生する恐れ</li> <li>当社グループのブロックチェーン技術を活用したサービスの開発を含む、健全な市場形成を支援するコンサルティング契約にかかる報酬が増減する恐れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保有する暗号資産の管理体制を整備</li> <li>トークンによる成果報酬型のプロジェクトに比して、定額報酬型のプロジェクトの比重を高める</li> <li>受託開発型のプロジェクトラインの拡充を図る</li> </ul>

1. 当社が認識している事業等のリスクのうち、中期目標の実現に影響を及ぼし、リスクが顕在化する可能性が中程度以上のものをフォーカスして記載。

主なリスク項目 <sup>1</sup>	影響するセグメント	リスクのシナリオ例	主な対応方針
個人情報漏洩等	全事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内管理体制の問題又は社外からの侵入等により、当社が抱える個人情報外部に漏洩した場合、当社グループへの損害賠償請求や信用低下の恐れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Pマーク認証の継続</li> <li>情報の取扱いに関する社員教育</li> <li>セキュリティシステムの改善</li> <li>情報へのアクセス管理</li> <li>内部管理体制の強化</li> </ul>
技術革新への対応の遅れ	ブロックチェーンシステムエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社グループの予想を超えるような革新的な最新技術又はサービスへの対応が遅れる場合、当社グループの技術的優位性やサービス競争力の低下の恐れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R&amp;D機能に経営資源を投下</li> <li>技術トレンドの収集や内部への情報伝達の仕組みを構築</li> </ul>
業務提携戦略的投資M&A等	全事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務提携先の経営状況により提携の維持が困難になる可能性、戦略的投資では投資先の財務状況等により期待する成果が得られない等により保有株式の評価減処理が発生する恐れ</li> <li>M&amp;Aは、買収後に偶発債務の発生や未認識債務の判明等、事前調査で把握できなかった問題が生じた場合や、事業計画どおりに進まずのれんの減損処理の恐れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資検討時に慎重、かつ、多面的な討議を重ねる</li> <li>PMIの徹底</li> <li>提携／投資先のバリューアップ</li> </ul>
感染症流行の長期化	全事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスや悪性鳥インフルエンザ等の感染症の流行に伴い、事業継続が困難になる。あるいは、営業自粛などで事業への悪影響が生じる恐れ</li> </ul>	<p>(全事業共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リモートワーク環境の強化</li> <li>社内コミュニケーションの強化</li> <li>安全管理対策の徹底</li> </ul>

ビジョン・中期経営目標の達成

# 日本を代表するブロックチェーンカンパニー

**1** 積極的に成長投資／事業規模を拡大

1 M&Aを積極展開

2 既存事業の自律成長

**2** 組織基盤／人材採用の強化

3 ストラクチャー  
の最適化

4 人材の確保  
人材への投資

1

高い売上高成長を狙い、  
M&A・資本業務提携を積極推進

- FY23.10月期におけるM&Aの成約は2件／年以上にコミット
- また、間接金融（デッド）も適正レンジを定めて効果的に活用する

2

各事業の  
さらなる強化

ブロックチェーン

エンジニアリング

インキュベーション

- チューリングラム社の事業成長を狙い、適切に経営資源を投下
- GameFi 分野などの新規案件開拓やコンサルティング機能を強化
- 契約受注するプロジェクトラインの拡充が課題

- クシムソフトを中核に、安定成長を継続
- セグメント利益は最高益を狙う

- 保有する暗号資産のバリューアップに継続し、収益化を図る
- Web3 テクノロジーズの本格展開に注力

3

拠点の分散化  
それに寄与する機能・能力の高度化

- 海外拠点の拡充を検討
- プロジェクト単位から、法人単位での展開を企図

4

成長力の源泉となるチームづくり

- プロパー人材の採用 と プロフェッショナル人材の獲得 に注力
- イノベーションに挑戦するため、ダイバーシティを推進

FY23.10月期は売上高成長を意識し、前年同期比42%の成長率を計画しています。  
これに加え、M&A他の重点施策を実施して参ります

(百万円)	2022年10月期実績	2023年通期業績見通し	前年比	通期業績見通しに対する解釈
売上高	1,616	2,290	142%	高い売上高成長を継続
EBITDA	441	687	156%	EBITDAの伸長を意識
営業利益	199	324	168%	事業からの キャッシュフロー創出力 を向上
経常利益	193	326	168%	
当期純利益	753	315	42%	黒字決算を継続

注) 百万単位以下については、切り捨て表記としています  
出所) 2022年10月期決算短信より抜粋



2023年10月期も、引き続き、中期目標の早期実現に向けた「成長投資」を積極的に実施します

## 目的

## 投資予定額

1

### 事業規模の拡大

M&A予算として充当

7.0億円

2

### ブロックチェーン事業 のさらなる強化

主に、人材確保・事業投資

3.5億円

**10.5億円**

(M&Aローンの活用などは除く)

## — 具体的な内容 ① —

1

### 事業規模の拡大

M&A予算として充当

7.0億円

2021年1月～2024年3月

#### ■ M&Aの想定ターゲット

売上が数億～数十億規模の会社を複数買収

#### ■ M&Aを含む、事業投資の注力領域

- 主に、SES事業や受託開発を展開している企業
- ブロックチェーン領域に展開、あるいは技術の活用を企図する企業
- 当社が注目するリードテクノロジー（AI/ブロックチェーン/IoT）にコミットしている
- デジタルマーケティング事業（\*当社が強化したい機能）を展開している先

## — 具体的な内容 ② —

# 2 ブロックチェーン事業 のさらなる強化

3.5億円

2022年12月～2024年10月

主に、人材確保・事業投資

### ■ トークンエコノミクス・コンサルティング事業資金 | 200百万円

チューリンガム株式会社のメインビジネスであるクライアントのトークンエコノミクスの設計から実現に至る一連のプロセスにおいて、一時的に必要とされる資金として充当

### ■ 採用・人件費 | 100百万円

ブロックチェーン・エンジニア（外部業務委託含む）、ブロックチェーン・リサーチャー、BizDev（事業開発）、マーケッター等のスペシャリストの採用、ならびに人件費

### ■ 事業運転資金 | 50百万円

本書は、株式会社クシムに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述を含みます。これらの記述は、当社が本書の作成時点において入手した情報に基づき、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。

これらの記述のためには一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述、または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等をご参照ください。

本書における将来に関する記述は、本書の作成時点のものであり、本書の作成時点の後に生じた事情によりこれらの記述に変更があった場合でも、当社は本書を改訂する義務は負いかねますのでご了承ください。

本書における当社以外の企業等にかかわる記述は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社はこれを保証するものではありません。本書で使用するデータまたは表現等の欠落、誤謬、本書の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本書にかかる一切の権利は、株式会社クシムに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。



**Kushim**

株式会社 クシム

**End**

2022年12月14日